

【目的】韓・日女子学生を対象に、民族服に対する意識の差異を検討するために、第一報では理論仮説の構成を、第二報では民族服に対する意識の差異を、第三報では民族服に対する意識の差異を規定する要因について、比較考察を行い報告してきた。本報では、韓・日女子学生の民族服に対する意識とそれを規定する要因との関連について比較考察することを目的とする。【方法】調査の概要は前報と同じである。分析について、まず媒介変数である規範意識、民族意識、衣生活意識、従属変数である民族服に対する評価、アイデンティティについて、それぞれの項目を合計し、その合計得点から上位、下位の25%で（高い・どちらでもない・低い）三つのグループに分けた。次にグループごとに媒介変数と従属変数とのクロス集計をもとに $\chi^2$ 検定を行って意識の差異を検討した。【結果】両国の女子学生とも、規範意識が高い人ほど民族服の社会性の側面を高く評価し、民族服に対するアイデンティティも高い。また民族意識が高い人（韓国の女子学生の殆ど）は民族服に対するアイデンティティも高い。衣生活意識については、韓国の女子学生は個性を重視する人ほど、民族服の審美性やファッション性の側面を、日本の女子学生は社会性を重視する人ほど、民族服の社会性の側面を高く評価している。